

マドリッド労働者協同組合連合会

日本労働者協同組合連合会とセンター事業団の友人の皆さん、

マドリッド労働者協同組合連合会から、連合会と事業団の年次総会へのお祝いと連帯の挨拶を申し上げます。

地理的に離れており、異なる文化的伝統にある両組織が、コミュニティに関与し、市民社会の経済的装置としての役割を果たしていることは、単なる偶然ではありません。ICAの文脈の中での私たちの関係は、長い道のりを経ています。

皆さん方が総会で取り扱う主要な三点は、マドリッド労協でも課題として高い優先度をもつ課題でもあります。

1)労働者協同組合法の法制化は、新しい世代に協同組合を魅力づけるものとなるでしょう。法律は、競争的なグローバル社会においても協同組合の原則と価値を保持しつつ、その存在を促進する法的な手段でなければなりません。

2)青年、女性、失業者、障害者、移民など社会における最も傷つきやすい人たちのための価値ある雇用創出への積極的関与は、協同組合が達成できることです。

3)地域のニーズの解決を図るため、私たちのセクタは地域の機構と深く関わり、これらのニーズの多くが既に社会的協同組合を通して、解決しつつあります。

最近の10年間、欧州連合、中央、自治、地方政府との協同で、私たちはいくつかの施策を発展させてきたことをお知らせしたいと思います。また、協同組合女性管理者協会(AMECOOP)とマドリッド労働者協同組合連合会は、情報、管理・運営への支援、協同組合づくり、新しい技術、情報の活用などについて持続した共同の活動を行ってきました。

2004年12月、タイでのICAアジア大会に私たちの異なる経験を分かち合うことができ、コロンビアでのICA2005年総会において、その結論を討議できるように望んでいます。

私たちはこうしたすべてのプロセスは、市民社会を発展させる必須要件である平和への基本的な貢献につながるだろうと信じています。

この機会に3月11日の残忍な攻撃に対して、私たちが受け取った皆様からのすべて支援と連帯に感謝いたします。私たちに關しては、投票による政府の民主的な交代で、戦争擁護者へ返答する任を果たした、と信じています。それは平和を守り、新植民地主義者と無責任な軍事侵略の撤退という考えを、支援し勝利させるものでした。

私たちのパートナーへ

連帯、協同組合主義、友情をすすめましょう。

マドリッド労働者協同組合連合会理事長
ルーベン・ビジャ